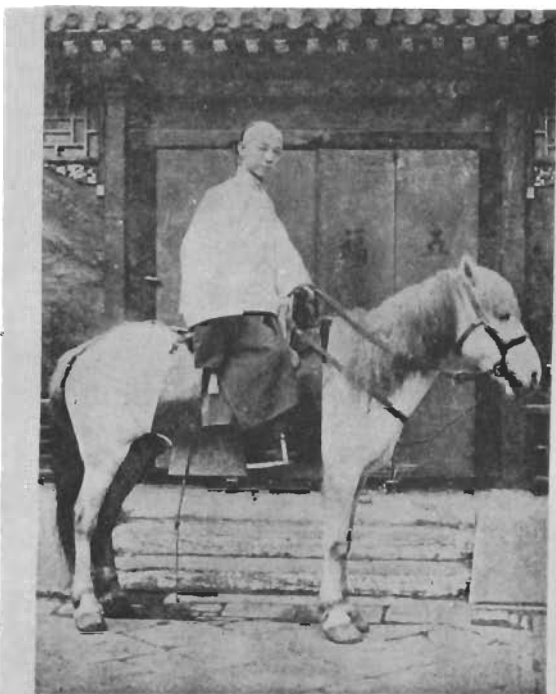


曾孟樸アルバム 写真提供曾虛白氏



光緒18年(1892) 21歳

光緒二十一年歲
次壬辰余春法
入都時年二十一
歲適有中桂
之悲常喜馳
騁以遣悲衷
長安道上行
馬馬有願
自高之概

光緒18年壬辰、私が春試で上京した時、年は21歳だった。ちょうど婦人に関する悲しみがあり、常に喜んで招聘に応じ、それで悲しい思いをはらした。長安道を軽い皮衣に太ったよい馬でさっそうとしており自分自身得意なおもむきがある。(注：写真下の説明は孟樸の自筆。写真に光緒21年とあるのは18年の誤まりである。前年、出産直後の夫人と子をなくしている)

光緒24年（1898）27歳



光緒二十六年
在常熟光霽
軒攝時年二
十七歲在末病
前狀兒面不
失腴潤也

光緒24年，常熟光霽軒で撮影した時，歳は27。病気になる前で，容貌はもとよりふくよかさを失っていない。（註：写真の光緒26年というのは24年の誤まり。フランス語・フランス文学の研究に没頭し病を得る直前の写真らしい）



(註：宣統元年であれば38歳。36歳であれば光緒33年のはずであるが、どちらと判定できるだけの資料がない)

民国3年（1914）43歳



民国3年43歳。項城で全国財政會議が召集され、私は任命を受け江蘇代表となった。この写真は會議が終わり、大統領に謁したのも記念品として撮影したもの。



民國12年(1923) 52歳

(註：曾孟樸は民国成立以前より1926年まで約18年間官吏生活を送っているが、この写真も官吏時代のものであろう)

民国18年（1929）58歳

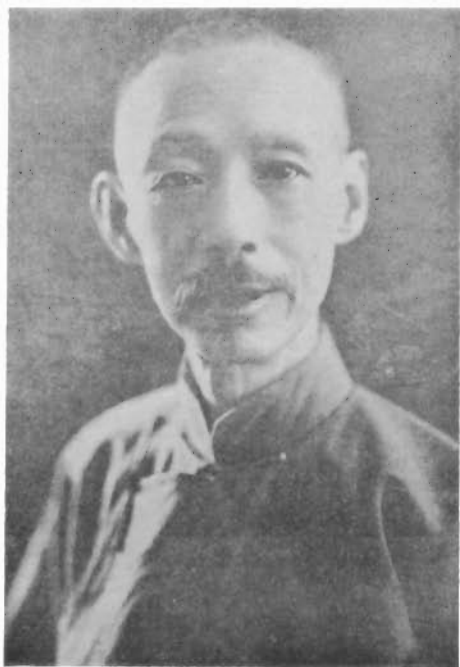
民國十八年八月十八日

与虚白創設真美善書店時
 本名真美善雜誌亦同時發行
 父子



足象
 登良友
 國畫報
 病夫
 記

民国18年58歳。この写真は良友國畫報に掲載されたもの。病夫附記。照兒と真美善書店と称するものを創設し、當時父子書店と号した。真美善雜誌も同じ頃発行した。（註：『真美善』の創刊は1927年11月1日。右は息子の虚白）



東亜病夫曾孟樸先生遺影 『字山風』第2期（天理図書館蔵）



曾慶白氏近影（1978）84歳

年，憐。斗，玉尺高，朽墜一億。
 還堪，三斗，夢，耐，高，神，深，點，殊妍。
 不，剔，傾，白，常，注，定，都，白，光。
 頭，燭，計，非，房，身，常，注，定，都，白，光。
 當，磨，寶，我，花，房，身，常，注，定，都，白，光。
 書，幸，壺，盡，用，花，房，身，常，注，定，都，白，光。
 黑，文，金，才，花，房，身，常，注，定，都，白，光。

休，求，去，留，驛，驅。
 似，此，中，去，留，驛，驅。
 功名，不合，中，去，留，驛，驅。
 意，激，終，不用，黃，菘，去，留，驛，驅。
 無，意，激，終，不用，黃，菘，去，留，驛，驅。
 笑，撫，無，意，激，終，不用，黃，菘，去，留，驛，驅。
 來，狂，忽，勃，初，升，投，筆，去，留，驛，驅。
 起，身，何，曉，目，初，升，投，筆，去，留，驛，驅。



註：左は『宇宙風』に掲載されたもの。その内容は、1892年の会試で答案を墨でよごし落第となった事情について述べている。上の詩もその時のことをうたったもの（『試卷被墨汚投筆慨然題二律』『眞美善』第1巻第4號所收）で、左と同じ原稿（未完の自伝『象記』だと思われる）の一部であるらしい。

『宇宙風』第2期（天理図書館蔵）